

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	地域のお茶の間研究所さろんて		
団体の属性	<input type="checkbox"/> セルフヘルプグループ・当事者等		<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアグループ等
	<input type="checkbox"/> 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	<input type="checkbox"/> 一般助成	<input checked="" type="checkbox"/> 協働モデル助成	協働モデル助成 本会提示テーマ 福祉的課題をもつ子どもの豊かな育ちを支える食支援の可能性
助成事業名	ケアラー支援調査、モデル事業と子どもの居場所と支援マップ作成事業		
事業の目的	地域でケアラーを発見し、相談、支援につなげる仕組みづくりの構築		
事業概要	<p>ヤングケアラーという言葉を目にする機会が増えましたが、どこにヤングケアラーがいるのか、そのような子どもに出会うことは難しいと言われています。</p> <p>私たちの団体は、フードパントリーをはじめ、子ども食堂等でたくさんの親子に出会います。利用者の中には、経済的に安定しない、親が精神疾患、きょうだいに障害を持っている家庭も少なくありません。コロナ禍を経て、不登校やDVで離婚する家庭も増加しているように感じます。また、多子の家庭も散見されます。</p> <p>このような家庭では、子は親の気持ちや家庭の状況を踏まえ、家事を担い、やりたいことや感情を抑えるなどといった日常生活をしていることが多く、親の話を聴き、親を支える立場を担い、広い意味でヤングケアラーと考えられる子がいるのではと見ています。また、いまだにひとり親や、精神疾患に対する偏見があり、子どもたちは家の状況を誰にも言えないで生活をしている場合もあります。</p> <p>しかしながら、このような子どもたちは他の家庭を知らないため、自分がケアラーである認識が出来ず、気持ちや声を受け止める機関も少なく、あっても子ども自身でアクセスすることができません。</p> <p>私たちは、親や家庭の生活支援を通して家庭の負担を減らすことで、子どもたちの支援につながると考えています。そこで、フードパントリーや子ども食堂を利用している家庭に困りごとや悩み事、どんな支援があったら生活が助かるかといったアンケート調査を行い、支援メニューの開発をします。</p> <p>また困った時にアクセスできるように支援先や、子ども自身が行ける子ども食堂や学習支援などの居場所マップの作成をします。</p> <p>この協働モデル事業を通して、ヤングケアラーについて多くの方に知ってもらい、地域で家族丸ごと見守っていく社会となることを目指しています。</p>		
成果や課題	<p>ヤングケアラー支援の課題は、ケアラーに出会うことが困難と言われています。本事業を通してヤングケアラーの啓発の一助となればと考えています。</p> <p>家庭や子どもが気軽に相談できるような、居場所や学習支援、生活支援の場の情報をマップやホームページで発信します。</p>		
今後の展望	<p>環境によって子どもたちの成長や学びが左右されないような地域をつくるため、アンケート調査やマップ、生活支援メニューを通して、家族丸ごと支援と多くの子どもたちが安心して過ごし、話せる居場所を増やし、地域の事業者や地区社協といった地縁団体とも協働し親子を支援する仕組みを構築したい。</p>		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付			